

5 外国語学研究科

教育研究上の目的（神奈川県立大学大学院外国語学研究科規程より抜粋）

外国語学研究科

本研究科の博士前期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤とし、言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野に関する優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目的とする。

本研究科の博士後期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野に関する高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目的とする。

欧米言語文化専攻

本専攻の博士前期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野に関する優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目的とする。

本専攻の博士後期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野に関する高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目的とする。

中国言語文化専攻

中国言語文化専攻の博士前期課程は、中国の「言語」、「歴史・文化」の二つの専門分野に関して、創造的研究を行う能力を有する教育者・研究者の育成、及び、今後の知識基盤社会に必要とされる高度な専門的知識、研究能力、及び外国語運用能力を有する専門職業人の育成を目的とする。

中国言語文化専攻の博士後期課程は、大学等の教育・研究機関に所属する教育者・研究者の育成を主要な目的とし、同時に、高度な専門的知識・研究能力を活用して一般企業、ジャーナリズム、行政機関等の業務に従事する能力を有した人材の育成を目的とする。

教育目標

外国語学研究科 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本研究科の博士前期課程では、学士課程卒業までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤に、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野で優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材を育成することを目標としています。それとあわせて、この課程は、言語教育の現場にいる人たちのために再教育を行うことも教育目標として定めます。

外国語学研究科 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本研究科の博士後期課程では、博士前期課程修了までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけて、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目標としています。それとあわせて、この課程は、言語教育の現場にいる人たちのために再教育を行うことも教育目標として定めます。

外国語学研究科 欧米言語文化専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本専攻の博士前期課程では、学士課程卒業までに身につ

けた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野で優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目標としています。それとあわせて、この課程は、言語教育の現場にいる人たちのために再教育を行うことも教育目標として定めます。

外国語学研究科 欧米言語文化専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的を踏まえ、本研究科の博士後期課程では、博士前期課程修了までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけて、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目標としています。それとあわせて、この課程は、言語教育の現場にいる人たちのために再教育を行うことも教育目標として定めます。

外国語学研究科 中国言語文化専攻 博士前期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科中国言語文化専攻博士前期課程では、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、中国語圏の言語、社会、歴史、文化に関する高度な専門的知識、研究能力、及び外国語運用能力を有する専門職業人の育成を教育の最終の目標としています。

近年東アジアを含む国際情勢が目まぐるしく変化しています。経済大国へと急成長してきた中国との関係は、日本にとってきわめて重要になっています。政治、経済、社会のどの分野においても、良好な日中関係の構築は世界平和のためにも大きな役割を果たすことになるでしょう。いま中国の社会、文化や歴史に深い理解をもち、中国語によるコミュニケーション能力を有する人材が求められています。

本課程では、学部で学んだ専門知識を充実させ、中国語の運用能力をさらに伸ばし、企業や行政、教育機関に必要な人材の育成を目指し、中国、東アジアの言語、社会、歴史、文化に関する専門的知識と研究能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

外国語学研究科 中国言語文化専攻 博士後期課程

本学の教育目標及び本研究科の教育研究上の目的等を踏まえ、外国語学研究科中国言語文化専攻博士後期課程では、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、中国語圏の言語、社会、歴史、文化に関する高度な専門的知識、研究能力、及び外国語運用能力を有する専門職業人、創造的研究を行う能力をもつ研究者の育成を教育の最終の目標としています。

近年東アジアを含む国際情勢が目まぐるしく変化しています。経済大国へと急成長してきた中国との関係は、日本にとってきわめて重要になっています。政治、経済、社会のどの分野においても、良好な日中関係の構築は世界平和のためにも大きな役割を果たすことになるでしょう。いま中国の社会、文化や歴史に深い理解をもち、中国語を含む高度な外国語によるコミュニケーション能力を有する人材が求められています。

本課程では、学部や博士前期課程で学んだ専門知識を充実させ、中国語の運用能力をさらに伸ばし、企業、行政及び教育・研究機関に必要な有為な人材の育成を目指し、体系的、理論的な知識を教授し、中国、東アジアの言語、社会、歴史、文化に関する専門的知識と研究能力を身につけさせることを教育目標として定めます。

研究科・専攻の基本方針（3つのポリシー）

外国語学研究科 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科の博士前期課程では、各専攻のカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士（文学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 外国の言語、文化、歴史などに関する広い知識を身につけている。
 - (2) グローバル化時代における社会の変化に適応する行動力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 修得した外国語（英語，スペイン語または中国語）を正確に運用する力を身につけている。
- (2) 異文化コミュニケーションを積極的に行い，異なる文化的背景を持つ人々と交流し，相互理解を深める力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 欧米言語文化専攻または中国言語文化専攻が取り扱う分野についての優れた専門知識と研究能力と広い視野を身につけている。
- (2) 専門職・教育職・研究職に必要な思考力と，産業界・教育界・学界において国際的に活躍できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科の博士前期課程は，高度な外国語の運用能力を基盤とし，言語，文化，文学，歴史，言語教育の分野に関する優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材を育成するために，以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 欧米言語文化専攻は，「英語教育・英語学」，「英米文化・英米文学」，「スペイン語圏言語文化」，「比較言語文化」，「国際日本文化研究」の5コースにカリキュラムを編成し，中国言語文化専攻は，中国語圏の「言語」と「歴史・文化」の2領域にカリキュラムを編成しています。
- (2) 学士課程教育との接続に配慮しつつ，外国語の運用能力を一層高め活用しながら，言語，文化，文学，歴史，言語教育の分野について理論的探究能力，専門知識の応用能力と広い視野を身につけられるカリキュラムを提供しています。
- (3) 教育者としての能力を高めるために，TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意しています。

2. 教育の方法と評価

- (1) 教育課程の実施にあたっては，学生の独立思考と問題発見を促し，ディスカッションを通してコミュニケーション能力を高め，問題解決の方法を模索し，見つけ出す力を培います。
- (2) 単位制度の実質化を図り，成績評価の基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 本研究科が取り扱う分野の基盤となる専門知識と基礎的な研究能力

2. 本研究科の求める入学者

- (1) 本研究科が取り扱う分野に必要な高度な外国語の運用能力を持つ人
- (2) 本研究科が取り扱う分野に必要な基礎知識を有する人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 研究に必要な外国語の運用能力，専門とする分野に対する関心，基礎的な知識および研究に対する意欲の高さを基準に選考します。

外国語学研究科 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本研究科の博士後期課程では，各専攻のカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し，提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は，以下の能力を身につけていると判断され，博士（文学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

- (1) 外国の言語，文化，歴史などに関する広い知識を身につけている。
- (2) グローバル化時代における社会の変化に適応する行動力を身につけている。
- (3) 自立的な思考力，既成の理論に対する果敢なチャレンジ精神を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

- (1) 修得した外国語（英語，スペイン語または中国語）を，さまざまな場面において正確に運用する力を身につけている。
- (2) 世界の動きに関心を寄せ，異文化コミュニケーションを積極的に行い，異なる文化的背景を持つ人々と交流し，相互理解を深める力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

- (1) 欧米言語文化専攻または中国言語文化専攻が取り扱う分野についての優れた専門知識と研究能力と広い視野を身につけている。
- (2) 専門職・教育職・研究職に必要な思考力と、産業界・教育界・学界において国際的に活躍できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本研究科の博士後期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野に関する高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 博士前期課程教育との接続に配慮しつつ、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけられるカリキュラムを提供しています。
- (2) 欧米言語文化専攻は、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースにカリキュラムを編成し、中国言語文化専攻は、中国語圏の「言語」と「歴史・文化」の2領域にカリキュラムを編成しています。
- (3) 自ら研究課題を設定し研究活動を行うための指導と機会を提供し、学内外の研究活動の場における研鑽がえられるようにしています。
- (4) 教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意しています。

2. 教育の方法と評価

- (1) 教育課程の実施にあたっては、学生の独立思考と問題発見を促し、ディスカッションを通してコミュニケーション能力を高め、論理的な思考力を養い、問題解決の方法を模索し見つける力を培います。
- (2) 単位制度の実質化を図り、成績評価の基準を明確化しています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 本研究科が取り扱う分野の基盤となる専門知識と高度な研究能力

2. 本研究科の求める入学者

- (1) 本研究科が取り扱う分野に必要な高度な外国語の運用能力を持つ人
- (2) 本研究科が取り扱う分野に必要な専門知識を有する人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 研究に必要な外国語の運用能力、専門とする分野の知識、研究能力および研究に対する意欲の高さを基準に選考します。

欧米言語文化専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻の博士前期課程では、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」のいずれかのコースのカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、修士（文学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力
 - (1) 専門的知識に基づいた広い社会的な視野を持つ。
2. 国際的感性とコミュニケーション能力
 - (1) 外国の資料を基に研究を行い、研究結果を外国語で発信することができる。
 - (2) 産業界・教育界・学界において国際的に活躍できる力を身につけている。
3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能
 - (1) 専門的知識を活かし、社会に貢献する力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻の博士前期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野に関する優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施
 - (1) 学士課程教育との接続に配慮しつつ、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野の優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけられるカリキュラムを提供します。
 - (2) 「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースにカリキュラムを編成しています。
 - (3) 理論的探究能力と、専門知識の応用能力とを身につけられるカリキュラムを提供します。
2. 教育の方法と評価
 - (1) 担当教員による専門性の高い指導を受けることができ、研究の方法、研究結果の発表の仕方などについて十分な力をつけることができる環境が用意されています。
 - (2) 教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意します。
 - (3) 成績評価の方法、基準を明確にしています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力
 - (1) 本専攻の博士前期課程では、学士課程卒業までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育の分野で優れた専門知識と研究能力と広い視野とを身につけて国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できる人材の育成を目標としています。
2. 本専攻の求める入学者
 - (1) 本専攻が取り扱う分野の基盤となる知識を持つ人
 - (2) 研究に必要な外国語の運用能力を持つ人
 - (3) 研究に対する高い意欲を持つ人
3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）
 - (1) 研究に必要な外国語の運用能力、専門とする分野の基礎的な知識、研究に対する意欲の高さを基準に、選考します。

欧米言語文化専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻の博士後期課程では、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」のいずれかのコースのカリキュラムにしたがって所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格した者は、以下の能力を身につけていると判断され、博士（文学）の学位が授与されま

す。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1) 専門的知識に基づいた広い社会的な視野を持ち、高度な研究活動を通して社会に貢献する力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 国際的なレベルで、研究活動を行い、研究結果を発信することができる。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 学界・教育界・産業界において国際的に活躍できる力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻の博士後期課程は、高度な外国語の運用能力を基盤として、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野に関する高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材を育成するために、以下のような教育課程を編成しています。

1. 教育課程の編成・実施

(1) 博士前期課程教育との接続に配慮しつつ、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれか分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけられるカリキュラムを提供します。

(2) 「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースにカリキュラムを編成しています。

2. 教育の方法と評価

(1) 自ら研究課題を設定し研究活動を行うための指導と機会を提供します。

(2) 学内外の研究活動の場における研鑽がえられるようにします。

(3) 教育者としての能力を高めるために、TA(ティーチング・アシスタント)を務める機会を用意します。

(4) 成績評価の方法、基準を明確にしています。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

(1) 本専攻の博士後期課程では、博士前期課程修了までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤とし、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、欧米もしくは日本の言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけて専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できる人材の育成を目標としています。

2. 本専攻の求める入学者

(1) 本専攻が取り扱う分野に関する専門知識と研究能力を持つ人

(2) 研究に必要な外国語の運用能力を持つ人

(3) 研究に対する高い意欲を持つ人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

(1) 研究に必要な外国語の運用能力、専門とする分野の知識、研究能力、研究に対する意欲の高さを基準に、選考します。

中国言語文化専攻 博士前期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士前期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した修士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下の能力のいずれかを身につけていると判断され、修士（文学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1) 中国、東アジアに関する専門的知識に基づいた広い社会的な視野を持つ。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 企業における中国、あるいはその他の東アジアと関わる職務、あるいは教育機関の行政職における専門化する業務内容に対応できる、中国、東アジアの言語、社会、歴史、文化に関する専門的知識と研究能力、及び研究成果を公表するためのプレゼンテーション能力の基礎を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 博士後期課程へ進学し、教育・研究機関に所属する教育者・研究者となりうる教育・研究能力の基礎を身につけ

ている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士前期課程では、中国語圏の「言語」、「歴史・文化」の二つの系に即して、それぞれの専門分野に関する専門的知識、研究能力、語学運用能力を養うため、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

- (1) 演習科目では、個別の専門領域における研究能力を身につけるため、指導教授による指導が行われます。
- (2) 講義科目では、個別の専門領域における専門的知識・外国語運用能力・国際的な研究動向を体系的に学ぶため、学生は講義科目を選択的に履修することが求められる。また、中国語圏以外の東アジア地域の言語、歴史、文化に関する専門的知識を身につけるための関連科目も準備されます。

2. 教育の方法と評価

- (1) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。
- (2) 演習科目と講義科目を通じて身につけた専門的知識、研究能力の成果を修了年次に修士学位論文として提出する。修士学位論文作成に際しては、学生は複数の教員による論文指導を受け、公正な審査の下で、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけているかを判定されます。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

- (1) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化に関する研究の基盤となる専門知識と高度な研究能力

2. 本専攻の求める入学者

- (1) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化に関する研究に必要な中国語の運用能力を有している人
- (2) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化に関する研究に必要な一定の英語の読解能力を有している人
- (3) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化のいずれかの各自が志望する専門分野における専門的知識の基礎を有する人
- (4) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化のいずれかの分野の研究者、あるいは高度職業専門人たり得る資質と意欲を有している人

3. 大学までの能力に対する評価（選抜方法）

- (1) 中国語の高い運用能力
- (2) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化のいずれかに対する高い関心
- (3) 中国語圏の言語、社会、歴史、文化のいずれかに関する課題への研究意欲

受け入れる学生としては、本学外国語学部の中国語学科、国際文化交流学科の卒業生以外にも、上記4条件を満たす他学部、他大学の卒業生、また留学生にも門戸を開いています。

中国言語文化専攻 博士後期課程

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本専攻博士後期課程のカリキュラムにおいて所定の単位を修得し、提出した博士論文が専攻内規に則って審査され合格と判定された者は、以下の能力のいずれかを身につけていると判断され、博士（文学）の学位が授与されます。

1. 自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1) 中国、東アジアに関する専門的知識に基づいた広い社会的な視野を持ち、高度な研究活動を通して社会に貢献する能力を身につけている。

2. 国際的感性とコミュニケーション能力

(1) 中国語圏の「言語」、又は「歴史・文化」のいずれかの分野において、大学等の教育・研究機関の研究者として十分なレベルの、自立した研究活動を行う能力、論文作成能力、及び研究成果を公表するためのプレゼンテーション能力を身につけている。

3. 時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1) 一般企業、ジャーナリズム、行政機関等の業務において、中国、あるいはその他の東アジアと関わる高度に専門化した業務内容に対応できる、中国、東アジアの言語、社会、歴史、文化に関する高度な専門的知識と研究能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本専攻博士後期課程では、中国語圏の「言語」、「歴史・文化」の二つの系に即して、それぞれの専門分野における研究者、あるいは専門的な知識を活用する職業人として相応の高度な専門的知識、研究能力、中国語運用能力を養うため、以下のようなカリキュラム・ポリシーを設定しています。

1. 教育課程の編成・実施

(1) 演習科目では、個別の専門領域における研究者として十分な研究能力を身につけるための指導教授による指導が行われます。

(2) 講義科目では、専門領域について体系的に学ぶため、講義科目を選択的に履修することが求められます。

2. 教育の方法と評価

(1) TA(ティーチング・アシスタント)に就くことで、教育者として教育能力を高める経験を積む機会を用意しています。

(2) 演習科目と講義科目を通じて身につけた専門的知識、研究能力の成果を修了年次に博士学位論文として提出する。

博士学位論文の提出に際しては、複数の教員による論文指導を受け、外部審査員を含めた審査の下で、ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけているかを判定されます。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

1. 大学院教育によって培う能力

(1) 中国語圏の言語、歴史、文化の研究の基盤となる専門知識と高度な研究能力

2. 本専攻の求める入学者

(1) 中国語圏の言語、歴史、文化に関する研究に必要な中国語の高度な読解能力（現代語、近代語及び古代語）を有している人

(2) 中国語圏の言語、歴史、文化のいずれかの各自が志望する専門分野における専門的知識の基礎を有しており、本専攻博士前期課程、あるいは他大学大学院において志望する専門分野の修士学位論文を作成しており、志望専門分野における高度な専門的知識、及び研究能力の基礎を有していることが認められる人

3. 博士前期課程までの能力に対する評価（選抜方法）

(1) 中国語の高度な運用能力

(2) 中国語圏の言語、歴史、文化に対する高度な関心

(3) 中国語圏の言語、歴史、文化に関する課題への高度な研究意欲

履修案内

本研究科の博士前期課程では、学士課程修了時までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤として、外国語の運用能力を一層高め、活用しつつ、言語、文化、文学、歴史、言語教育に関する広い視野と優れた専門知識、さらには研究能力を身につけるとともに、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、国際的な職業人・教育者・研究者として活躍できることを目的とします。またこの課程は、言語教育の現場にいる人（現職教員等）が再教育に利用することも可能です。

博士後期課程では、博士前期課程修了時までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識・研究能力を基盤として、外国語の運用能力を一層高め、活用しつつ、言語、文化、文学、歴史、言語教育のいずれかの分野で高度の専門知識と研究能力とを身につけるとともに、本学共同研究機関である人文学研究所や言語研究センター、非文字資料研究センターの諸活動と緊密に連携しつつ、専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人として活躍できることを目的とします。またこの課程は、言語教育の現場にある人（現職教員等）が再教育のために利用することも可能です。

<欧米言語文化専攻>

本専攻の博士前期課程では、学士課程修了時までに身につけた外国語の運用能力・教養・専門知識を基盤に、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースのいずれか1つを専修し、「講義」と「演習」の組み合わせにより、専攻分野に関する優れた専門知識と視野と研究能力とを身につけていきます。

「講義」は、学士課程の講義とは異なり、少人数でディスカッションもしながら、専攻分野の専門知識と視野を身につけていく授業です。「演習」は、履修者の研究課題に沿いながら、研究の方法と修士論文の執筆法とを身につけていく授業です。どちらについても、研究の指導者である「指導教授」が助言しサポートします。具体的なカリキュラムの内容、履修方法、修士論文については、履修要覧のなかの「学修の流れ」や、「教育課程表」とそれに付属する「履修方法」などの解説を参照してください。授業内容については各科目の「シラバス」を参照してください。

本博士前期課程は、国際的な職業人・教育者・研究者の養成を目標としています。また、英語教育の分野では、中等教育の現場にいる人のために、最新の英語教育法も教授しています。

本専攻の博士後期課程では、博士前期課程で身につけた専門知識と研究能力とを基盤に、外国語の運用能力を一層高め活用しながら、「英語教育・英語学」、「英米文化・英米文学」、「スペイン語圏言語文化」、「比較言語文化」、「国際日本文化研究」の5コースのいずれか1つを専修し、「講義」と「演習」の組み合わせにより、専攻領域の専門知識を深め、自立的な研究能力を培っていきます。「講義」は、少人数でディスカッションもしながら、専攻分野の専門知識を深めていく授業です。「演習」は、履修者の研究課題に沿いながら、研究を深め、博士論文の執筆をめざす授業です。どちらについても、研究の指導者である「指導教授」が助言しサポートします。具体的なカリキュラムの内容、履修方法、博士論文については、履修要覧のなかの「学修の流れ」や、「教育課程表」とそれに付属する「履修方法」などの解説を参照してください。授業内容については各科目の「シラバス」を参照してください。

本博士後期課程は、専門的かつ国際的な研究者・教育者・職業人の養成を目標としています。また、英語教育の分野では、中等教育の現場にいる人のために、最新の英語教育法も教授しています。

<中国言語文化専攻>

博士前期課程では、中国の「言語」、「歴史・文化」の二つの系に即して、それぞれの専門分野に関する専門的知識、研究能力、中国語運用能力を身につけるためのカリキュラムを設定しています。言語系では、現代中国語に関する語彙論、文法論、意味論、語用論、社会言語学の諸問題に関する講義科目・演習科目が置かれています。歴史・文化系では、中国の近世、近代における歴史、社会、思想、文学、大衆芸能の各分野に関する講義科目・演習科目が置かれています。

演習科目では、個別の専門領域における研究能力を身につけるため、指導教授による指導が行われます。

講義科目では、個別の専門領域における専門的知識・中国語運用能力・国際的に通用する研究方法を体系的に身につけることをめざします。また、中国以外の東アジア地域の言語、歴史、文化に関する専門的知識を身につけるための関連科目も置かれています。

これらの科目を通じて身につけた専門的知識、研究能力の成果を、修了年次に修士学位論文として提出することが求められます。2年次に論文計画書の提出、論文中間報告会での発表、語学認定試験の受験が求められます。修士学位論文作成に際しては、指導教授以外に従たる指導教授からも論文指導を受けることが可能です。提出された修士論文に関しては、

主査及び審査委員2名による審査，公開の口頭試問が行われます。

※修士論文作成・審査のプロセスに関しては、「博士前期課程 学修の流れ」を参照してください。

博士後期課程では，中国の「言語」，「歴史・文化」の二つの系に即して，それぞれの専門分野における研究者，あるいは専門的な知識を活用する職業人として相応の高度な専門的知識，研究能力，中国語運用能力を養うため，以下のような科目が置かれています。

演習科目では，個別の専門領域における研究者として十分な研究能力を身につけるための，指導教授による指導が行われます。

講義科目：個別専門領域について，研究者として必要な高度な専門的知識・専門的な中国語運用能力・国際的に通用する研究方法を体系的に身につけることをめざします。

これらの科目を通じて身につけた専門的知識，研究能力の成果を，修了年次に博士学位論文として提出することが求められます。2年次に論文中間報告会での発表，3年次に論文計画書の提出，論文予備審査，語学認定試験の受験が求められます。博士学位論文の提出に際しては，審査の主査（指導教授）と審査委員4名（学外審査委員1名を含む）から成る審査委員会が審査にあたり，口頭試問，及び学外にも公開された公聴会が行われます。

※博士学位論文作成・審査のプロセスに関しては、「博士後期課程 学修の流れ」を参照してください。

学修の流れ

博士前期課程 学修の流れ

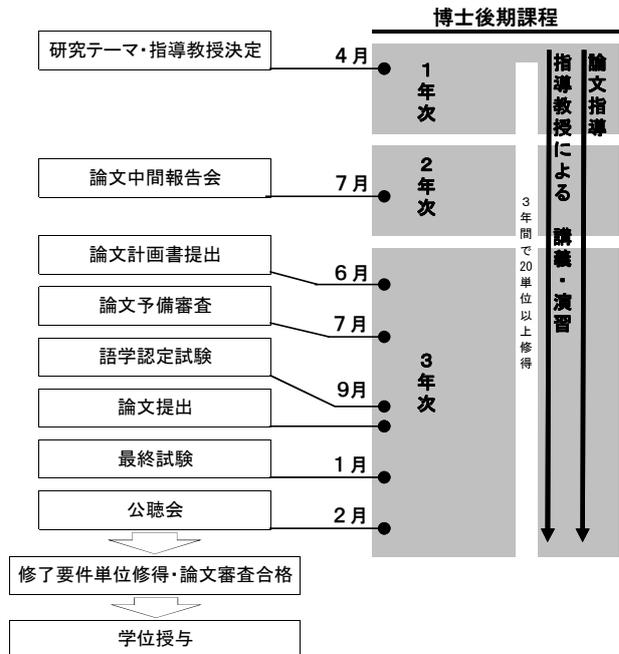
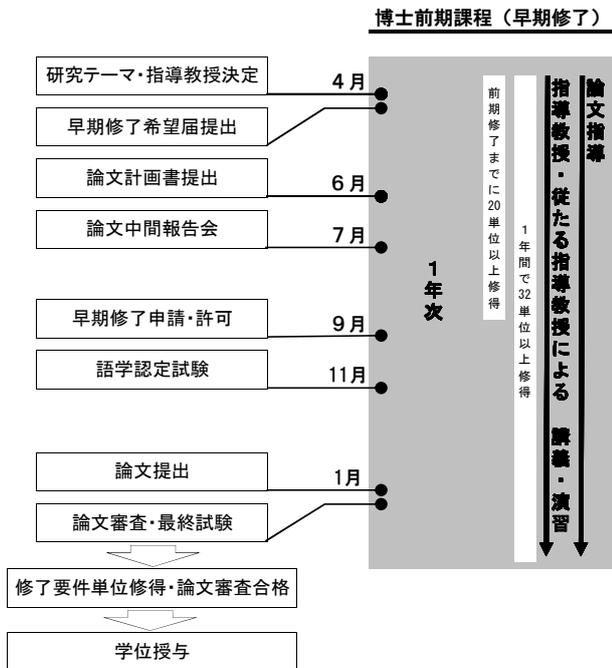
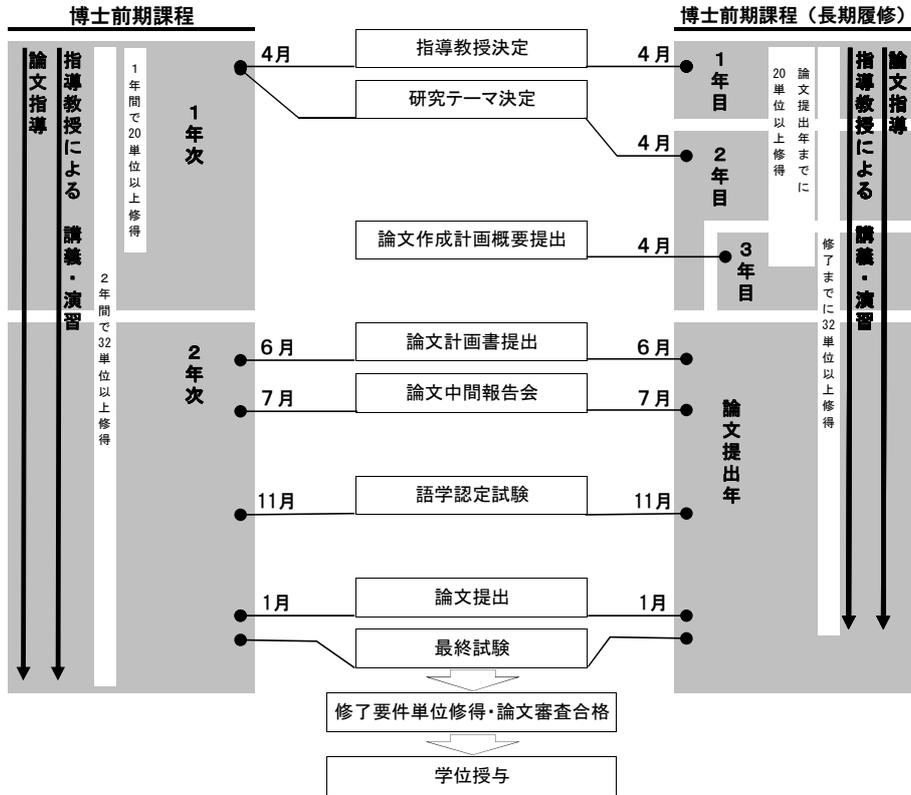
学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		各自の研究テーマ・指導教授を決定する。		
	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授] 講義履修(4 単位) [指導教授] その他の科目履修(12 単位以上)	指導教授の演習科目を含めて 20 単位以上修得する(論文提出要件)
2 年次	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授]	・2 年次修了までに 32 単位以上の修得が必要 [指導教授の演習 8 単位・指導教授の講義 4 単位を含む] (修了要件) ・修了見込証明書発行基準: 2 年次に在学し 20 単位以上を修得している
			その他の科目履修(8 単位以上)	
	6 月	論文計画書を提出する		論文タイトルと概要を提出する
	7 月	論文中間報告会で発表する		
	11 月	語学認定試験を受験する		(論文提出要件)
	12 月	論文提出準備		作成要領をもとに準備する 修士論文審査員(主査・副査)が決定される
		1 月	論文提出 最終試験	主査・副査により口述試験が実施される
3 月	学位授与式			

早期修了者・長期履修者は、次ページの「学修フローチャート」を参照してください。

博士後期課程 学修の流れ

学 年	月	事 項	備 考	
1 年次	4 月	オリエンテーション		
		各自の研究テーマ・指導教授を決定する		
	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授] 講義履修(4 単位) [指導教授] その他の科目履修	
2 年次	4・9 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授]	
			その他の科目履修	
7 月	論文中間報告会で発表する			
3 年次	4 月	履修登録	演習履修(4 単位) [指導教授]	3 年間で20単位以上修得する(指導教授の演習12単位・指導教授の講義 4 単位を含む) (修了要件)
			その他の科目履修	
	6 月	論文計画書を提出する		論文タイトルと概要を提出する
	7 月	論文予備審査		提出前に審査が行われる 博士論文審査員(主査・副査)が決定される
		論文提出準備		作成要領をもとに準備する
	9 月	語学認定試験を受験する 論文提出		(論文提出要件)
	1 月	最終試験		主査・副査により口述試験が実施される
2 月	公聴会			
3 月	学位授与式			

外国語学研究所 学修フローチャート



成績評価について

1 科目試験について

秀	90点以上	所期の目標を十分に達成し、特に秀でた成績を示している。	合格
優	80点以上	所期の目標を十分に達成し、優れた成績を示している。	合格
良	70点以上	不十分な点があるが、所期の目標をほぼ達成している。	合格
可	60点以上	所期の目標の最低限は満たしている。	合格
不可	60点未満	いくつかの重要な点において所期の目標を達成していない。	不合格

2 論文試験について

修士論文評価基準

- ①当該研究領域における修士としての必要な知識を修得し、必要に応じて当該研究領域における問題を的確に把握し、解明する能力を身に付けているか。
- ②申請された学位に対して研究テーマの設定が妥当なものであるか、論文作成に当たって、そのテーマを踏まえた明確な問題意識を有しているか。
- ③論文の記述（本文、図、表、引用、文献リストなど）が適切かつ十分であり、明瞭にして一貫した論理構成を備え、明確かつ妥当な結論を得ているか。
- ④設定したテーマの研究に際して、適切な研究方法（調査、実験、論証など）が採用され、論文ではそれに則った具体的かつ的確な分析或いは考察がなされているか。
- ⑤外国語文献読解や外国における調査を踏まえた論文については、外国語の解釈、運用が的確であるか。
- ⑥当該研究領域において、理論的或いは実証的な見地から、一定レベル以上の水準に達しているか。

博士論文評価基準

- ①研究者として自立して研究活動を行うに足る、又は高度の専門性が求められる社会の各分野において活躍しうる高度の研究能力と豊かな学識が身に付いているか。
- ②適切なテーマ設定が行われ、明確な問題意識に基づき、的確な方法によって研究がなされているか。
- ③学術論文として明確かつ緻密な論理性を備えるとともに、学術論文にふさわしい記述方法が選択され、かつ明瞭にして妥当な結論が得られているか。
- ④当該研究領域において、論文は一定レベル以上の水準に達しているか。
- ⑤当該研究分野において何らかの貢献をなしたか、又は新たな知見を付け加えることができたか。
- ⑥当該研究領域において論文は独創的なレベルに到達しているか。

教育課程表

2020年度 外国語学研究所欧米言語文化専攻博士前期課程 教育課程表(2015年度入学者から適用)

授 業 科 目	開講期	副 題	単 位		担 任 教 員	備 考		
			講義	演習				
英語教育・英語学	英語教育特殊講義 A 1	前学期		2	2		【休講】	
	英語教育特殊講義 A 2	後学期		2	2		【休講】	
	英語教育特殊講義 B 1	前学期	音声学		2	2	准教授 博士(言語学) 小松 雅彦	
	英語教育特殊講義 B 2	後学期			2	2	准教授 博士(言語学) 小松 雅彦	
	英語教育特殊講義 C 1	前学期	心理言語学研究		2	2	教授 Ed. D. テビット・アリン	
	英語教育特殊講義 C 2	後学期			2	2	教授 Ed. D. テビット・アリン	
	英語教育特殊講義 D 1	前学期	英語教育学研究 (アクションリサーチによる授業改善)		2	2	教授 高橋 一幸	
	英語教育特殊講義 D 2	後学期			2	2	教授 高橋 一幸	
	英語教育特殊講義 E 1	前学期	英語教育学研究 (文法・題材指導とテスト理論)		2	2	教授 久保野 雅史	
	英語教育特殊講義 E 2	後学期			2	2	教授 久保野 雅史	
	英語学特殊講義 A 1	前学期	生成文法理論		2	2	教授 Ph. D. 辻子 美保子	
	英語学特殊講義 A 2	後学期			2	2	教授 Ph. D. 辻子 美保子	
	英語学特殊講義 B 1	前学期	統語論(生成文法)		2	2	教授 Ph. D. 佐藤 裕美	
	英語学特殊講義 B 2	後学期			2	2	教授 Ph. D. 佐藤 裕美	
	英語学特殊講義 C 1	前学期	生成統語分析		2	2	教授 Ph. D. 廣瀬 富男	
	英語学特殊講義 C 2	後学期			2	2	教授 Ph. D. 廣瀬 富男	
英米文化・英米文学	英米文化特殊講義 A 1	前学期	イギリスの歴史と文化	2	2	准教授 博士(文学) 山本 信太郎		
	英米文化特殊講義 A 2	後学期		2	2	准教授 博士(文学) 山本 信太郎		
	英米文化特殊講義 B 1	前学期	欧米と日本の文化交流史と相互観	2	2	教授 ウィリアム・マコウミ		
	英米文化特殊講義 B 2	後学期		2	2	教授 ウィリアム・マコウミ		
	英米文化特殊講義 C 1	前学期	オーストラリアの社会と文化	2	2	准教授 博士(学術) 栗田 梨律子		
	英米文化特殊講義 C 2	後学期		2	2	准教授 博士(学術) 栗田 梨津子		
	英米文学特殊講義 A 1	前学期	イギリス小説・おとぎ話研究	2	2	教授 Ph. D. 村井 まや子		
	英米文学特殊講義 A 2	後学期		2	2	教授 Ph. D. 村井 まや子		
	英米文学特殊講義 B 1	前学期	イギリス演劇・シェイクスピア研究	2	2	教授 Ph. D. 郷 健治		
	英米文学特殊講義 B 2	後学期		2	2	教授 Ph. D. 郷 健治		
	英米文学特殊講義 C 1	前学期	アメリカ小説・散文・詩	2	2	准教授 Ph. D. 古屋 耕平		
	英米文学特殊講義 C 2	後学期		2	2	准教授 Ph. D. 古屋 耕平		
	英米文学特殊講義 D 1	前学期	英語圏児童文学・ファンタジー	2	2	教授 博士(文学) 鈴木 宏枝		
	英米文学特殊講義 D 2	後学期		2	2	教授 博士(文学) 鈴木 宏枝		
スペイン語圏言語文化	スペイン語学特殊講義 A 1	前学期	対照統語論研究 (日本語・スペイン語・英語)	2	2	教授 博士(文学) 片岡 喜代子		
	スペイン語学特殊講義 A 2	後学期		2	2	教授 博士(文学) 片岡 喜代子		
	スペイン語学特殊講義 B 1	前学期	第二言語習得論	2	2	准教授 アルトカーロ・ハロン・ロヘス		
	スペイン語学特殊講義 B 2	後学期		2	2	准教授 アルトカーロ・ハロン・ロヘス		
	スペイン語学特殊講義 C 1	前学期	スペイン語史研究	2	2	教授 菊田 和佳子		
	スペイン語学特殊講義 C 2	後学期		2	2	教授 菊田 和佳子		
	スペイン語圏文化特殊講義 A 1	前学期	ラテンアメリカ文化・歴史研究	2	2	教授 小倉 英敬		
	スペイン語圏文化特殊講義 A 2	後学期		2	2	教授 小倉 英敬		
	スペイン語圏文化特殊講義 B 1	前学期	ラテンアメリカ現代社会研究	2	2	教授 新木 秀和		
	スペイン語圏文化特殊講義 B 2	後学期		2	2	教授 新木 秀和		
	スペイン語圏文化特殊講義 C 1	前学期	スペイン演劇研究	2	2	教授 ウィクトル・カルテロン		
	スペイン語圏文化特殊講義 C 2	後学期		2	2	教授 ウィクトル・カルテロン		
	スペイン語圏文化特殊講義 D 1	前学期	スペインの歴史と文化	2	2	准教授 博士(文学) 黒田 祐我		
	スペイン語圏文化特殊講義 D 2	後学期		2	2	准教授 博士(文学) 黒田 祐我		
スペイン語圏文化特殊講義 E 1	前学期	スペイン近現代史	2		講師 立石 博高			
スペイン語圏文化特殊講義 E 2	後学期		2		講師 立石 博高			
比較言語文化	比較言語文化特殊講義 A 1	前学期	国際文化論 (International Cultural Relations)	2	2	教授 博士(法学) 柳 赫秀		
	比較言語文化特殊講義 A 2	後学期		2	2	教授 博士(法学) 柳 赫秀		
	比較言語文化特殊講義 B 1	前学期		2	2		【休講】	
	比較言語文化特殊講義 B 2	後学期		2	2		【休講】	
	比較言語文化特殊講義 C 1	前学期	対照言語学	2	2	教授 堤 正典		
	比較言語文化特殊講義 C 2	後学期		2	2	教授 堤 正典		
	比較言語文化特殊講義 D 1	前学期	社会言語学	2	2	教授 Ph. D. 岩本 典子		
	比較言語文化特殊講義 D 2	後学期		2	2	教授 Ph. D. 岩本 典子		

比較言語文化	比較言語文化特殊講義 E 1	前学期		2	2				【休講】
	比較言語文化特殊講義 E 2	後学期		2	2				【休講】
	比較言語文化特殊講義 F 1	前学期	イスラーム文化研究	2	2	准教授	博士(社会人類学)	大川 真由子	
	比較言語文化特殊講義 F 2	後学期		2	2	准教授	博士(社会人類学)	大川 真由子	
	比較言語文化特殊講義 G 1	前学期	会話分析研究	2	2	教授	Ed. D.	細田 由利	
	比較言語文化特殊講義 G 2	後学期		2	2	教授	Ed. D.	細田 由利	
	比較言語文化特殊講義 H 1	前学期	生成文法系言語習得論	2	2	准教授	Ph. D.	山根 麻紀	
	比較言語文化特殊講義 H 2	後学期		2	2	准教授	Ph. D.	山根 麻紀	
	比較言語文化特殊講義 I 1	前学期	Graphic Fiction Studies	2	2	教授	Ph. D.	ステファン・ブッハベルグ	
	比較言語文化特殊講義 I 2	後学期		2	2	教授	Ph. D.	ステファン・ブッハベルグ	
	比較言語文化特殊講義 J 1	前学期	表象文化論	2	2	教授	Ph. D.	熊谷 謙介	
	比較言語文化特殊講義 J 2	後学期		2	2	教授	Ph. D.	熊谷 謙介	
国際日本文化研究	国際日本文化特殊講義 A 1	前学期	近現代日本文化研究	2	2	教授	博士(文学)	松本 和也	
	国際日本文化特殊講義 A 2	後学期		2	2	教授	博士(文学)	松本 和也	
	国際日本文化特殊講義 B 1	前学期	日本中世芸能論・史論の研究	2	2	教授	博士(文学)	深澤 徹	
	国際日本文化特殊講義 B 2	後学期		2	2	教授	博士(文学)	深澤 徹	
	国際日本文化特殊講義 C 1	前学期	日韓対照言語学	2	2	教授	博士(学術)	尹 亭仁	
	国際日本文化特殊講義 C 2	後学期		2	2	教授	博士(学術)	尹 亭仁	
	国際日本文化特殊講義 D 1	前学期	国際日本学	2	2	准教授	Ph. D.	クリスチャン・ラットクリフ	
	国際日本文化特殊講義 D 2	後学期		2	2	准教授	Ph. D.	クリスチャン・ラットクリフ	
	国際日本文化特殊講義 E 1	前学期		2	2				【休講】
	国際日本文化特殊講義 E 2	後学期		2	2				【休講】
国際日本文化特殊講義 F 1	前学期	日本倫理想史	2	2	教授	博士(文学)	上原 雅文		
国際日本文化特殊講義 F 2	後学期		2	2	教授	博士(文学)	上原 雅文		
関連科目	日本語学研究 I a	前学期		2		教授	博士(文学)	駒走 昭二	
	日本語学研究 I b	後学期		2		教授	博士(文学)	駒走 昭二	
	韓国文化研究 I a	前学期		2					【休講】
	韓国文化研究 I b	後学期		2					【休講】
	比較文化研究 I	前学期		2					【休講】
	比較文化研究 II	後学期		2					【休講】

指導教授

学生は所属する専攻内で演習の指導を受ける教員を選び、研究科委員長の承認を得て、その教員によって研究全般の指導を受けるものとする。

この教員を指導教授と称する。指導教授は2名とすることができ、その場合にはいずれか一方を主たる指導教授とする。指導教授については次のとおりとする。

1. 指導教授は原則として変更することはできない。変更するには研究科委員会の承認を必要とする。
2. 従たる指導教授については、研究科委員長の承認を得て、届け出るものとする。
従たる指導教授は、研究科委員長が研究上特に必要と認めた場合、各年度において異なってもよい。

履修方法

学生は、入学年次の年度当初に、指導教授の所属するコースを、専攻コースとして定めなければならない。

- 1-1. 「英語教育・英語学コース」「英米文化・英米文学コース」「スペイン語圏言語文化コース」のいずれかを専攻するコースとして定めた場合、修了に必要な講義科目の単位数は、専攻するコースの授業科目中、主たる指導教授の講義科目4単位を含め講義6科目12単位以上とする。修業年限の短縮が認められた者についても同様とする。
- 1-2. 「比較言語文化コース」「国際日本文化研究コース」のいずれかを専攻するコースとして定めた場合、修了に必要な講義科目の単位数は、専攻するコースの授業科目中、主たる指導教授の講義科目4単位を含め講義4科目8単位以上とする。修業年限の短縮が認められた者についても同様とする。
2. 主たる指導教授の演習科目は必修とし、2年間にわたり8単位を修得しなければならない。ただし、修業年限の短縮が認められた者は、主たる指導教授による演習を4単位修得することで足りるものとする。
なお、主たる指導教授と研究科委員長の承認を得て、従たる指導教授の演習を4単位まで履修することができる。
また、指導教授が研究上必要と認めた場合には、指導教授の同一講義科目を2年間にわたり8単位まで履修することができる。
3. 指導教授が研究上特に必要と認めたときは、他研究科または学部課程の授業科目を8単位以内履修することができる。
また、他大学院（神奈川県内の大学院間の単位互換協定校）の授業科目を10単位まで履修することができる。
なお、この上限を超えて履修を希望する場合には、主たる指導教授と研究科委員長の承認を得なければならない。
4. 上記3の修得単位は、8単位を上限として修了要件単位に算入することができる。
5. 修了のためには、上記1・2の要件を満たした上、合計32単位以上を修得すること。
修業年限の短縮が認められた者についても同様とする。
6. 長期履修制度に関する所定の手続きに従い申請等を行うことにより、修了年限を3年または4年とすることができる。
長期履修制度を利用する場合、主たる指導教授の演習は毎年度履修すること。ただし、修了要件に算入できる単位数は8単位までとする。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年以上在学し、履修方法にしたがって32単位以上を修得（修業年限の短縮が認められた者は、本研究科に1年以上在学し、32単位以上を修得）し、かつ、指導教授から必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
2. 修士論文の審査を申請できる者は、博士前期課程第2年次以上（修業年限の短縮が認められた者は、博士前期課程第1年次以上）に在学し、履修方法にしたがって20単位以上を修得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

2020年度 外国語学専攻 欧米言語文化専攻 博士後期課程 教育課程表 (2015年度入学者から適用)

授業科目	開講期	副題	単位		担任教員	備考	
			講義	演習			
英語教育・英語学	英語教育特殊研究 A 1	前学期	2	2		【休講】	
	英語教育特殊研究 A 2	後学期	2	2		【休講】	
	英語教育特殊研究 B 1	前学期	2	2	准教授 博士(言語学) 小松 雅彦		
	英語教育特殊研究 B 2	後学期	2	2	准教授 博士(言語学) 小松 雅彦		
	英語教育特殊研究 C 1	前学期	2	2	教授 Ed. D. ティビット・アリン		
	英語教育特殊研究 C 2	後学期	2	2	教授 Ed. D. ティビット・アリン		
	英語教育特殊研究 D 1	前学期	2	2	教授 高橋 一幸		
	英語教育特殊研究 D 2	後学期	2	2	教授 リサーチによる授業改善		
	英語教育特殊研究 E 1	前学期	2	2	教授 久保野 雅史		
	英語教育特殊研究 E 2	後学期	2	2	教授 久保野 雅史		
	英語学特殊研究 A 1	前学期	生成文法理論	2	2	教授 Ph. D. 辻子 美保子	
	英語学特殊研究 A 2	後学期	生成文法理論	2	2	教授 Ph. D. 辻子 美保子	
	英語学特殊研究 B 1	前学期	統語論(生成文法)	2	2	教授 Ph. D. 佐藤 裕美	
	英語学特殊研究 B 2	後学期	統語論(生成文法)	2	2	教授 Ph. D. 佐藤 裕美	
英語学特殊研究 C 1	前学期	生成統語分析	2	2	教授 Ph. D. 廣瀬 富男		
英語学特殊研究 C 2	後学期	生成統語分析	2	2	教授 Ph. D. 廣瀬 富男		
英米文化・英米文学	英米文化特殊研究 A 1	前学期	2	2	准教授 博士(文学) 山本 信太郎		
	英米文化特殊研究 A 2	後学期	2	2	准教授 博士(文学) 山本 信太郎		
	英米文化特殊研究 B 1	前学期	2	2	教授 ウィリアム・マコウミ		
	英米文化特殊研究 B 2	後学期	2	2	教授 ウィリアム・マコウミ		
	英米文化特殊研究 C 1	前学期	2	2		【休講】	
	英米文化特殊研究 C 2	後学期	2	2		【休講】	
	英米文学特殊研究 A 1	前学期	イギリス小説・おとぎ話研究	2	2	教授 Ph. D. 村井 まや子	
	英米文学特殊研究 A 2	後学期	イギリス小説・おとぎ話研究	2	2	教授 Ph. D. 村井 まや子	
	英米文学特殊研究 B 1	前学期	イギリス演劇・シェイクスピア研究	2	2	教授 Ph. D. 郷 健治	
	英米文学特殊研究 B 2	後学期	イギリス演劇・シェイクスピア研究	2	2	教授 Ph. D. 郷 健治	
英米文学特殊研究 C 1	前学期	アメリカ小説・散文・詩	2	2	准教授 Ph. D. 古屋 耕平		
英米文学特殊研究 C 2	後学期	アメリカ小説・散文・詩	2	2	准教授 Ph. D. 古屋 耕平		
スペイン語圏言語文化	スペイン語学特殊研究 A 1	前学期	2	2	教授 博士(文学) 片岡 喜代子		
	スペイン語学特殊研究 A 2	後学期	2	2	教授 博士(文学) 片岡 喜代子		
	スペイン語学特殊研究 B 1	前学期	2	2	准教授 アルトゥロ・バルロ・ロハス		
	スペイン語学特殊研究 B 2	後学期	2	2	准教授 アルトゥロ・バルロ・ロハス		
	スペイン語学特殊研究 C 1	前学期	2	2	教授 菊田 和佳子		
	スペイン語学特殊研究 C 2	後学期	2	2	教授 菊田 和佳子		
	スペイン語圏文化特殊研究 A 1	前学期	ラテンアメリカ文化・歴史研究	2	2	教授 小倉 英敬	
	スペイン語圏文化特殊研究 A 2	後学期	ラテンアメリカ文化・歴史研究	2	2	教授 小倉 英敬	
	スペイン語圏文化特殊研究 B 1	前学期	ラテンアメリカ現代社会研究	2	2	教授 新木 秀和	
	スペイン語圏文化特殊研究 B 2	後学期	ラテンアメリカ現代社会研究	2	2	教授 新木 秀和	
スペイン語圏文化特殊研究 C 1	前学期	スペイン演劇研究	2	2	教授 ウィクトル・カルテロン		
スペイン語圏文化特殊研究 C 2	後学期	スペイン演劇研究	2	2	教授 ウィクトル・カルテロン		
スペイン語圏文化特殊研究 D 1	前学期	スペイン史研究	2	2	准教授 博士(文学) 黒田 祐我		
スペイン語圏文化特殊研究 D 2	後学期	スペイン史研究	2	2	准教授 博士(文学) 黒田 祐我		
スペイン語圏文化特殊研究 E 1	前学期	スペイン近現代史	2	2	講師 立石 博高		
スペイン語圏文化特殊研究 E 2	後学期	スペイン近現代史	2	2	講師 立石 博高		
比較言語文化	比較言語文化特殊研究 A 1	前学期	2	2		【休講】	
	比較言語文化特殊研究 A 2	後学期	2	2		【休講】	
	比較言語文化特殊研究 B 1	前学期	2	2		【休講】	
	比較言語文化特殊研究 B 2	後学期	2	2		【休講】	
	比較言語文化特殊研究 C 1	前学期	2	2	教授 堤 正典		
	比較言語文化特殊研究 C 2	後学期	2	2	教授 堤 正典		
	比較言語文化特殊研究 D 1	前学期	2	2	教授 Ph. D. 岩本 典子		
	比較言語文化特殊研究 D 2	後学期	2	2	教授 Ph. D. 岩本 典子		
	比較言語文化特殊研究 E 1	前学期	2	2	准教授 博士(社会人文学) 大川 真由子		
	比較言語文化特殊研究 E 2	後学期	2	2	准教授 博士(社会人文学) 大川 真由子		
	比較言語文化特殊研究 F 1	前学期	2	2	教授 Ed. D. 細田 由利		
	比較言語文化特殊研究 F 2	後学期	2	2	教授 Ed. D. 細田 由利		
	比較言語文化特殊研究 G 1	前学期	2	2	准教授 Ph. D. 山根 麻紀		
	比較言語文化特殊研究 G 2	後学期	2	2	准教授 Ph. D. 山根 麻紀		
比較言語文化特殊研究 H 1	前学期	2	2	教授 Ph. D. ステファン・ブッヘンベルグ			
比較言語文化特殊研究 H 2	後学期	2	2	教授 Ph. D. ステファン・ブッヘンベルグ			
比較言語文化特殊研究 I 1	前学期	2	2	教授 Ph. D. 熊谷 謙介			
比較言語文化特殊研究 I 2	後学期	2	2	教授 Ph. D. 熊谷 謙介			
国際日本文化研究	国際日本文化特殊研究 A 1	前学期	2	2	教授 博士(文学) 松本 和也		
	国際日本文化特殊研究 A 2	後学期	2	2	教授 博士(文学) 松本 和也		
	国際日本文化特殊研究 B 1	前学期	2	2	教授 博士(文学) 深澤 徹		
	国際日本文化特殊研究 B 2	後学期	2	2	教授 博士(文学) 深澤 徹		
	国際日本文化特殊研究 C 1	前学期	2	2	教授 博士(文学) 深澤 徹		
	国際日本文化特殊研究 C 2	後学期	2	2	教授 博士(文学) 深澤 徹		
	国際日本文化特殊研究 D 1	前学期	2	2	教授 博士(学術) 尹 亭仁		
	国際日本文化特殊研究 D 2	後学期	2	2	教授 博士(学術) 尹 亭仁		
	国際日本文化特殊研究 E 1	前学期	2	2	准教授 Ph. D. クリステン・ラットクリフ		
	国際日本文化特殊研究 E 2	後学期	2	2	准教授 Ph. D. クリステン・ラットクリフ		
国際日本文化特殊研究 F 1	前学期	2	2		【休講】		
国際日本文化特殊研究 F 2	後学期	2	2		【休講】		

履修方法

1. 学生は、所属する専攻内で演習の指導を受ける教員を選び、その教員によって学位論文の作成、その他研究全般の指導を受けるものとする。
2. この教員を指導教授と称する。
3. 学生は、指導教授の担当科目（講義4単位、演習3年間にわたり12単位）を含めて20単位以上修得しなければならない。

修了要件

1. 博士後期課程の修了要件は、本研究科の博士後期課程に3年以上在学し、履修方法にしたがって20単位以上を修得し、かつ、指導教授から必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
2. 博士論文の審査を申請できる者は、博士後期課程第3年次以上に在学し、履修方法にしたがって所定の単位を修得し、指導教授から必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

2020年度 外国語学研究所中国言語文化専攻博士前期課程 教育課程表(2015年度入学者から適用)

	授 業 科 目	副 題	開 講 期	単 位		担 任 教 員	備 考
				講義	演習		
言語	中国語学研究Ⅰa	現代中国語の統語論研究	前学期	2	2	准教授 博士(文学) 加藤 宏 紀	
	中国語学研究Ⅰb		後学期	2	2	准教授 博士(文学) 加藤 宏 紀	
	中国語学研究Ⅱa	言語文化論の対照研究	前学期	2	2	教授 博士(文学) 彭 国 躍	
	中国語学研究Ⅱb		後学期	2	2	教授 博士(文学) 彭 国 躍	
	中国語学研究Ⅲa	現代中国語の文法論研究	前学期	2	2	教授 博士(言語文化学) 鈴木 慶 夏	
	中国語学研究Ⅲb		後学期	2	2	教授 博士(言語文化学) 鈴木 慶 夏	
歴史・文化	中国歴史研究Ⅰa	上海近代史と『良友』画報	前学期	2	2	教授 博士(学術) 孫 安 石	
	中国歴史研究Ⅰb		後学期	2	2	教授 博士(学術) 孫 安 石	
	中国歴史研究Ⅱa		前学期	2	2		【休講】
	中国歴史研究Ⅱb		後学期	2	2		【休講】
	中国文化研究Ⅰa	中国現代史の中の帰国華僑	前学期	2	2	教授 村 井 寛 志	
	中国文化研究Ⅰb		後学期	2	2	教授 村 井 寛 志	
	中国文化研究Ⅱa	中国古典文献の基礎的読解	前学期	2	2	准教授 博士(文学) 松 浦 智 子	
	中国文化研究Ⅱb		後学期	2	2	准教授 博士(文学) 松 浦 智 子	
	中国文化研究Ⅲa	明清小説と江南の地域文化	前学期	2	2	教授 鈴木 陽 一	
	中国文化研究Ⅲb		後学期	2	2	教授 鈴木 陽 一	
関連科目	日本語学研究Ⅰa		前学期	2		教授 博士(文学) 駒 走 昭 二	
	日本語学研究Ⅰb		後学期	2		教授 博士(文学) 駒 走 昭 二	
	韓国文化研究Ⅰa		前学期	2			【休講】
	韓国文化研究Ⅰb		後学期	2			【休講】
	比較文化研究Ⅰ		前学期	2			【休講】
	比較文化研究Ⅱ		後学期	2			【休講】
	アカデミックライティングⅠ		前学期	2		講師 博士(文学) 鈴木 進 一	
アカデミックライティングⅡ		後学期	2		講師 博士(文学) 鈴木 進 一		

指 導 教 授

学生は所属する専攻の科目のうちから演習の指導を受ける科目を選び、研究科委員長の承認を得て、その科目担任の教授によって研究全般の指導を受けるものとする。

この科目をその学生の専修科目と称し、担任教授を指導教授とする。指導教授は2名とすることができ、その場にはいずれか一方を主たる指導教授とする。

指導教授については次のとおりとする。

1. 指導教授は通常変更することはできない。変更の際は研究科委員会の承認を必要とする。
2. 研究科委員長が研究上、特に必要と認めた場合、従たる指導教授は各年度において異なってもよい。

従たる指導教授については、研究科委員長の承認を得て、届け出るものとする。

履修方法

指導教授の指導によって、

1. 修了に必要な単位数は、授業科目中、専修科目を含め講義2科目8単位以上とする。ただし、修業年限の短縮が認められた者は、授業科目中、専修科目を含め講義3科目12単位以上とする。
2. 専修科目の演習は必修とし、2年間にわたり8単位を修得しなければならない。ただし、修業年限の短縮が認められた者は、指導教授による演習を4単位修得することで足るものとする。

なお、主たる指導教授と従たる指導教授の指導を受ける場合は、研究科委員長の承認を得て、従たる指導教授の演習を4単位まで履修することができる。また、指導教授が研究上必要と認めた場合には、同一の講義科目を2年間にわたり8単位まで履修することができる。

3. 指導教授が研究上特に必要と認めたときは、他の研究科または学部の課程による単位を8単位以内履修することができる。また、他大学大学院（神奈川県内の大学院間の単位互換協定校）の授業科目を10単位まで履修することができる。
4. 上記3の修得単位は、8単位を上限として修了要件単位に算入することができる。
5. 上記1・2の要件を満たした上、合計32単位以上を修得すること。ただし、修業年限の短縮が認められた者は、合計36単位以上を修得しなければならない。
6. 長期履修制度に関する所定の手続きに従い申請等を行うことにより、修了年限を3年または4年とすることができる。

修了要件

1. 博士前期課程の修了要件は、本研究科に2年以上在学し、32単位以上を修得（修業年限の短縮が認められた者は、本研究科に1年以上在学し、36単位以上を修得）し、かつ、必要な研導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
2. 修士論文の審査を申請し得る者は、博士前期課程第2年次以上（修業年限の短縮が認められた者は、博士前期課程第1年次以上）に在学し、所定の授業科目について20単位以上を取得し、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

2020年度 外国語学専攻中国言語文化専攻博士後期課程 教育課程表(2011年度入学者から適用)

	授 業 科 目	開講期	副 題	単 位		担 任 教 員	備 考
				講義	演習		
言語	中国語学特殊研究Ⅰa	前学期	現代中国語文法研究への文法理論の応用	2	2	准教授 博士(文学) 加藤 宏 紀	
	中国語学特殊研究Ⅰb	後学期		2	2		
	中国語学特殊研究Ⅱa	前学期	社会言語学の理論と応用	2	2	教授 博士(文学) 彭 国 躍	
	中国語学特殊研究Ⅱb	後学期		2	2		
	中国語学特殊研究Ⅲa	前学期	現代中国語文法論の多角的考察	2	2	教授 博士(言語文化学) 鈴木 慶 夏	
	中国語学特殊研究Ⅲb	後学期		2	2		
歴史・文化	中国歴史特殊研究Ⅰa	前学期	中国都市史および地方史研究	2	2	教授 博士(学術) 孫 安 石	
	中国歴史特殊研究Ⅰb	後学期		2	2		
	中国歴史特殊研究Ⅱa	前学期		2	2		【休講】
	中国歴史特殊研究Ⅱb	後学期		2	2		【休講】
	中国文化特殊研究Ⅰa	前学期	中国現代史における香港の役割の考察	2	2	教授 村 井 寛 志	
	中国文化特殊研究Ⅰb	後学期		2	2		
	中国文化特殊研究Ⅱa	前学期	中国近世通俗文芸の研究	2	2	准教授 博士(文学) 松 浦 智 子	
	中国文化特殊研究Ⅱb	後学期		2	2		
中国文化特殊研究Ⅲa	前学期	通俗文芸における物語言説の分析	2	2	教授 鈴木 陽 一		
中国文化特殊研究Ⅲb	後学期		2	2			教授 鈴木 陽 一

履 修 方 法

1. 学生は、自己の最も専門に研究しようとする授業科目を選び、その演習を担当する教授から、学位論文の作成、その他研究全般の指導を受けるものとする。
2. その授業科目をその学生の「専修科目」と称し、担任教授を「指導教授」という。
3. 学生は、専修科目（講義4単位、演習12単位）を含めて20単位以上修得しなければならない。

修 了 要 件

1. 博士後期課程の修了要件は、博士後期課程に3年以上在学し、20単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。
2. 博士論文の審査を申請し得る者は、博士後期課程において、所定の単位を修得し、必要な研究指導を受け、かつ、本研究科の指定する方法により外国語の学力に関する認定に合格した者に限る。

研究領域

外国語学研究科

[欧米言語文化専攻]

担当教員	専門分野
新木 秀和	ラテンアメリカ近現代史, ラテンアメリカ地域研究
アルトゥーロ・パロン・ロペス	第二言語習得, スペイン語教育
岩畑 貴弘	言語学, 英語学
岩本 典子	言語学
ウィリアム・マコウミ	比較文化研究, 欧米研究, 文化交流史
ヴィクトル・カルデロン	スペイン文学
上原 雅文	倫理学, 日本倫理思想史
大川 真由子	文化人類学, 中東地域研究
小倉 英敬	グローバル・サウス論, 世界システム論, ラテンアメリカ思想史
片岡 喜代子	理論言語学, 統語論
上 英明	国際関係史, 北アメリカ研究, ラテンアメリカ研究
菊田 和佳子	スペイン語史, スペイン語学
久保野 雅史	学習英文法, テスティング, 英語教育史
熊谷 謙介	フランス文学, 表象文化論
クリスチャン・ラットクリフ	日本古典文学, 日本文化史
栗田 梨津子	文化人類学, オーストラリア地域研究
黒田 祐我	スペイン史
小松 雅彦	音声学
郷 健治	イギリス文学, イギリス演劇
佐藤 裕美	理論言語学
辻子 美保子	理論言語学
鈴木 宏枝	英語圏児童文学・絵本
ステファン・ブッヘンベルゲル	比較文学, ドイツ文学
高橋 一幸	英語教育学, 教師教育
堤 正典	言語学, スラヴ語学, ロシア語学
デビッド・アリン	英語教育, 心理言語学, 第二言語習得, 会話分析
富谷 玲子	日本語教育学, 社会言語学
廣瀬 富男	理論言語学
深澤 徹	平安・院生期の文学
古屋 耕平	アメリカ文学, 批評理論
細田 由利	会話分析, 第二言語習得
松本 和也	日本近現代文学, 日本現代演劇史
村井 まや子	イギリス文学, 比較文学, おとぎ話
山根 麻紀	言語習得論
山本 信太郎	西洋史, イギリス近世史
柳 赫秀	国際法, 国際関係, 日韓関係
尹 亨仁	対照言語学, 韓国語教育

[中国言語文化専攻]

担当教員	専門分野
加藤 宏紀	現代中国語文法
鈴木 慶夏	中国語学, 中国語教育, 第二言語としての中国語習得
鈴木 陽一	中国白話小説史, 日中近世文化交流史
孫 安石	中国近代史, 上海都市史, 東アジア租界史
彭 国躍	社会言語学, 語用論, 中国語学
松浦 智子	中国通俗文芸, 中国古典文学
村井 寛志	中国・香港近現代史, 越境的大衆文化史, マレーシア華人現代史